作品賞

九段会館テラス

- 歴史的価値を活かしながら再生-



建物外観(撮影:川澄·小林研二写真事務所)

建築概要

建 設 地:東京都千代田区九段南1丁目6番5号

建築主:合同会社ノーヴェグランデ

計: 鹿島·梓 設計工事監理業務共同企業体 設

工:鹿島建設株式会社 施 建築面積:5.123.02m² 延床面積:68,036.35m²

数:地上17階、地下3階(保存棟)地上5階、地下1階 階

さ:74.966m (保存棟) 28.93m

構造種別:SRC造(免震構造) 登録有形文化財 (保存棟)

選評

内堀通りにL型に既存棟を残して、開放的な武道館や 靖国神社を望める牛ヶ淵沿に玄関ホール前の九段広場か ら遊歩道をつなげ、歴史的な玄関ホールを高層増築棟の プラザ、オフィスエントランスへと空間を連続させ巧み に演出している。また、保存部分の最上階には、屋上庭 園を設け、帝冠様式の屋根瓦の再生を気持ちの良いテラ スからも望め、開放的な都心の景観を楽しめる施設とし て再生された。

既存棟の免震レトロフィットは、外壁の保存を意識さ れて、基礎上免震を採用して、EXP.J 部のレベルを巧み に変えて目立たないように工夫し、外観の保存に生かさ れている。また、既存躯体の中性化対策、外装タイルに 対する剥離防止、東日本地震の教訓を生かし2次部材の 耐震化、省エネ、遮音、機密性の向上と『改修がわから ない』ことを徹底され、BCP対応として、帰宅困難者(3 日間)の受け入れ可能な計画とする等、様々な工夫を行 い、免震既存棟と制振増築棟をEXP.Jにて繋ぎ、現行 法規に準拠したうえに大臣認定を取得、耐震性能を大き く向上させ再生した。

既存改修は、解体時におこる様々な困難を乗り越え、 歴史上重要な舞台となった施設が登録有形文化財として 登録を受け再生された施設づくりに関わられた方々全員 に賞替を贈りたい。 (小林 仁)

建築主:合同会社ノーヴェグランデ

設計者: 鹿島·梓 設計工事監理業務共同企業体

施工者: 鹿島建設株式会社

改修に至った経緯及び企画設計等

旧九段会館の北側(昭和館側)と東側(内堀通り側) をL字型に保存し、保存範囲(保存棟)の大部分の外装 と宴会場など保存室の歴史的価値を損なわずに残す必要 があった。また、躯体は今後の長期使用に耐えうる耐久 性と耐震性が求められた。

天井等の二次部材についても天井崩落事故の教訓から 高い安全性が求められ、災害時の帰宅困難者の受け入れ も含めて BCP 対応が必要とされた。

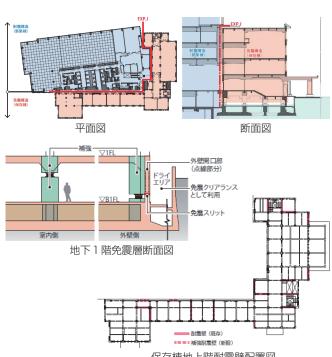
これらの要求性能を満たすべく免震構造を採用した。 解体部分は超高層の新築棟がエキスパンションを介して 建てられた。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

既存ドライエリアを免震クリアランスとして利用する基 礎上免震を採用した。外周部は地下1階外壁開口部下で の免震とすることで外壁開口部の保存を可能とした。室 内側の一部を柱頭免震とし地下1階の有効活用を図った。

1階正面玄関庇部分は、デザイン切り替え部の柱脚台座 天端の目地部を利用して滑り支承を納め外観に配慮した。

今後の長期使用に当たり既存躯体を調査して、一部で コンクリートの中性化が進んでいること、地下 1 階でコ ンクリート強度の低い部分があることが判明した。中性 化対策策として再アルカリ化工法、低強度コンクリート 対策として一部の柱で既存コンクリートを撤去して打ち 直しを行った。



保存棟地上階耐震壁配置図